

復活節第5主日の説教

金 大烈 神父 2009年5月10日(日)

《イエス様がいらっしゃらなかったら私の人生は意味がない》

こんばんは。(午前中のミサは伊勢崎教会において谷司教の司式で行われた。)

イエス様はいろんなたとえを使われました。ある意味で一番柔らかいような気がしますが、何か厳しい教えの言葉があると今読みまして感じました。

御父は農夫、イエス様はぶどうの木で私たちは枝です。枝の目的は実を結ぶこと。

実を結ばない枝は切って捨てる。実を結ぶためにはその枝が必ず木につながっていなければならない。これが今日の福音の内容です。それではイエス様につながる方法は何でしょうか？枝が木にちゃんとつながっている条件は何でしょうか？

それは今日の第二朗読で読まれた内容です。(1ヨハネ 3・18 - 24)

『その掟とは、神の子イエス・キリストの名を信じ、この方がわたしたちに命じられたように、互いに愛し合うことです。神の掟を守る人は神の内にとどまり、神もその人の内にとどまってください。神がわたしたちの内にとどまってください。神が与えてくださった、“霊”によってわかります。』

簡単な結論です。皆様今日のミサを通して、もう一回皆様の胸に刻んで頂きたいです。「もしイエス様がいなければ自分の人生は意味がない。」というくらいの告白が欲しいです。実際このような考えで生きていったいろんな人たち、殉教者、先輩たちがいます。イエス様を考えずには私たちは幸福とか幸せを味わうことができないという心が、無意識にでも私たちの中にあるのでしょうか？あるはずですよ。

皆様、よく考えて下さい。もしイエス様がいらっしゃらなかったら虚しい。今までやってきたことがすべて崩れてしまいます。しかし、幼い子供のように「私は強くイエス様のことを思います。」という意識があれば、何があっても何が起こっても乗り越えられます。これが信仰でしょう。もう一回申し上げます。「イエス様がいなかったら私の人生は意味がない。」皆様考えていただきたいと思えます。振り返って見て下さい。たぶんちょっと浅いところがあるでしょう。薄いところがあるでしょう。

しかし少なくとも「あなたがいなかったら私の人生は意味がないです。」という祈りができれば最高じゃないかと思えます。

もう一回イエス様の掟を考えてみましょう。『神の掟を守る人は神の内にとどまり、神もその人の内にとどまってください。』

ありがとうございました。